令和８年度 第２回 静岡県立駿河総合高等学校 学校運営協議会 議事録

１　開催概要

（１）日　時　:令和８年９月 16 日 14:30～16:30

（２）場　所　：静岡県立駿河総合高等学校 会議室

（３）出席者　【駿河総合】

吉澤委員、京井委員、小澤委員、櫻田委員、校長、副校長、教頭、
総務課長、教務図書課長、生徒指導課長、進路課長、保健課長、
教育相談室長、学校魅力推進課長、情報管理課長
１年学年主任、３年学年主任

【南の丘分校】

野村委員、若狭委員、田辺委員、山田委員、杉山委員、田代委員
校長、副校長、部主事、進路課長、教務課長

２　内　　容

（１）両校長あいさつ

【駿河総合高校長】

７月の１日体験入学には 1,000 名を超える中学生・保護者が参加し、８月の合同説明会でも個別相談が途切れないなど高い関心が示された。10 月にはオープンスクールを予定している。インターハイに出場した生徒報告や「トビタテ！留学ジャパン」でオーストラリアへ短期留学した生徒の現地調査成果、夏休みに市内でフィールドワークを行った２年次生の成長を紹介した。

【南の丘分校長】

南の丘分校が今年４月で開校 22 年目を迎え、高校敷地内分校として県内・全国の先駆けとなった歴史を振り返った。「共生・共育」は双方向で支え合い高め合うものであると強調。昨冬のマラソン大会で分校生と駿河総合生が同じ苦しさを共有し、互いに応援し合った姿に触れ、将来同じ職場で高校時代の思い出を語り合える関係性への期待を語った。

（２）授業参観及び校内見学

駿河総合高校の６時間目、３年生選択授業を中心に参観した。福祉実習室、視聴覚室、ＣＧ室、ものづくり実習室、生徒ホールなどの施設も併せて見学した。その後、南の丘分校の帰りのＳＨＲの様子、体育館でのサッカー部、バスケットボール部の部活動の様子を見学した。

（３）協議「持続可能な共生・共育に向けて」

ア　「共生・共育」について

野村 和代 先生（南の丘分校 令和８年度コーディネーター / 常葉大学講師）

エクスクルージョン（排除)、セグレゲーション（分離)、インテグレーション（統合)、インクルージョン（包摂）の概念を資料で確認し、課題提起した。現在の学校環境が「インテグレーション」段階に留まっていないかを問いかけ、多様性を認め合う「真のインクルージョン」へと進むための意図的な体験や仕掛けの必要性を指摘した。

また、南の丘分校副校長より静岡県教育委員会が示した「静岡県版インクルーシブ教育システム」の概要を説明し、高等学校と特別支援学校分校の新たな連携のあり方や研究・実践の推進方針を共有した。

イ 合同の垂直防災訓練等の報告

【駿河総合　教頭より】

駿河総合高校教頭より 6 月 12 日に実施した地震・津波想定の垂直避難訓練（事前予告なしで震度 7・津波警報を想定し、4 階以上の高層階へ避難後にＣラーニングで安否確認）の成果を報告した。また、11 月 6 日に予定している第 2 回火災避難訓練（初期消火・通報シミュレーション含む）について説明した。

【南の丘　部主事より】

合同垂直避難での指示系統や連絡方法（放送不能時の伝言連絡等)、知的障害のある生徒への明瞭な指示出しの重要性を報告し、教職員間の事前準備や避難ルート・安全検証の必要性を挙げた。

→(委員Ａ)

避難訓練はうまくいかないことやこういう風にやってみたらなどを検証するため　の訓練である。訓練がこうやって動くんだという固定概念を生まないように、あくまでも試行的なものであることを伝えることが大事である。熊本の大規模商業施設の爆発の件はまだはっきりしていないが、ＬＰガスによるものではないかと言われている。

→（委員Ｂ）助言と考察

訓練は課題を検証するための機会であり、生徒へ試行的な取組であることを適切に伝えながら実効性を高めていくよう促すことが大切である。

ウ 県内の高等学校と特別支援学校分校の共生・共育の実際

①総合学科の実際（駿河総合高校×南の丘分校）　駿河総合　教頭

行事交流（対面式、交通安全教室、文化祭、体育祭、防災訓練等)、LHR 交流（レクリエーション、ビブリオバトル)、授業交流（家庭科、体育、商業等）の 3 つの柱を報告した。単なる一時的交流にとどまらず日常的な仲間意識を育んでいることを説明した。

②専門学科の実際（田方農業高校×沼津特別支援伊豆田方分校）　南の丘　副校長

農業高校の特色を生かした作業学習（園芸・陶芸・清掃・木工班とライフデザイン

科セラピーコースとの協働）や総合探究、体育など、相互の学習目標を明確にした取り組み事例を紹介した。

③普通科の実際（富士東高校×富士特別支援富士東分校）　　駿河総合　副校長

合同学校行事、縦割りランチ交流、部活動・広報協働、専門性還元（PTA 奉仕作業での清掃指導、校内清掃リクエスト BOX 等）の取り組みを報告した。

エ 各委員・実践担当教員からの発言・報告・意見交換

→(南の丘分校　進路主任)

年々交流が充実しており、両校の教員が互いの職員室を訪問し合って丁寧な事前打ち合わせや授業提案を行い教員間の連携を深めている実践状況を報告した。

→(駿河総合　進路課長)

南の丘分校生と駿河総合生がグループを組み、生成 AI（ChatGPT 等）を活用しながら双方のマスコットキャラクターを取り入れたメモ帳を作成・評価した取り組みを報告した。南の丘商店街での販売や宣伝促進での今後のさらなる連携案を説明した。

→(駿河総合 副校長)

総合的な探究の時間（防災）で生徒の発案から始まった「かまどベンチ」制作において、南の丘分校生や外部機関と協働して完成させた事例を紹介し、併設校ならではの協働成果を説明した。

→(委員Ｂ)

県内初の高校敷地内分校（として設置された）設置の一職員として関わった当時の経緯を振り返り、当初の懸念を乗り越えて 20 年間で教員間・生徒間・PTA 間の連携が着実に進化してきた実績を評価した。「共生・共育」の課題については、各学校で事情が違うが、駿河総合に「共生・共育」のリーダーとして期待することは大きい。

→(委員Ｃ)

先生方がどこかに関わりがあると考え、交流を設計している。障害のあるなしに関係なく、他者を認めることが、「共生・共育」につながる。いろいろな違いを認めることが、生徒にとって安心できる場になる。富士東高校の縦割りランチ交流は、交流する場が多層的になっていて素晴らしい。

→（委員Ｄ）

「共生・共育」という言葉は知っていたが、具体的な取組について初めて知ることができた。地元の理解も必要であり、活動を応援する応援団も必要である。

→(委員Ｅ)

併設環境での多様な刺激が生徒の視野を広げていることを評価している。行事だけでなく日常の中で自然に助け合える友人関係の広がりに期待している。

→(委員Ｆ)

学校間での関わりが卒業後の社会生活や就労における相互理解・配慮につながる。

→(委員G)

学校間でどのようなコミュニケーションをとっているのか、話を聴いて理解できた。両校の職員室の近さも大事なことだが、生徒同士、教員同士の距離が近くなることも大切である。

→(委員H)

多様な人々が共に生きる社会こそが本来の姿であり、日常的な学校生活を通じて自然に交流し、尊重し合う意識を育むことが大切である。

（4）連絡事項

それぞれの学校で、今後の日程を確認した。